
ど~ 1 !!

歩得夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どろろ！！

【Nコード】

N4795B

【作者名】

歩得夢

【あらすじ】

高校の教師に不満をもつ生徒達が溢れる中の原学園。高校側は危ない生徒を切り捨てる方針。そこへ新しく入ったのが春藤一。この男どろろが中の原に嵐を起こす！

NO：教師春藤一（前書き）

暇な時にでも読んで頂ければ嬉しいです。

NO：教師春藤一

ふいに小学校の卒業文集が読みたくなった。自己PR『僕は大人になつたらすごいひとになっていると思います。』

「なんだよこれ。全く馬鹿だよな。自分は凄い人だと思い込んでんだもんな。こんな俺なのに。」

無責任なんだよ。

「無責任なんだよ!!」

心の中でのつぶやきはいつの間にか大声の声に変わっていた。階段から足音がしてノックが鳴った。

「入るわよ。」

母親が入ってきた。

「ちよつと」。先生から聞いたわよ。不良に喧嘩売ったんだって。なんでそんなことしたの?」

「・・・・」

「お前なんかに言っても仕方ないと思ってるでしょ?」

「思ってるねえよ。」

「いいえ、思ってるわ。母さんあんなのことはなんでも

「わかったから消えてくれよ。」

「嫌よ。あんたはなんでもそうやって溜め込むんだから。」

「はいはい、そうですね。」

「何か話す気になつたら、降りてきてね。あとこれ、夕食だから。」

結局、母親には何もはなさなかった。

不意に自分がすごく小さい気がした。

次の日、予想どおり先生に呼び出された。

なんでやつたんだ?

なんのために?

あんたらに俺の気持ちが分かってたまるかよ。所詮はその場を治め

ようとしてるだけじゃないかよ！

俺は先生に適当な嘘について、その場をあとにした。あいつらは俺らのことなんて、ちっとも考えちゃいない。すべて自分のため。そんな奴が先生なんかするから、生徒は居場所を無くすんだろぅが！その1面からしか見えない目が、上からしか聞こえない耳が、良いか悪いかとしか判断できない頭が、俺らを苦しめてんのに…きずこうともしない…。

中の原学園。偏差値低迷のため、いきなり規制を厳しくして、生徒をほとんど退学にさせている高校。なので、みんな新しい理事長には反抗出来ないでいた。

「ここが中の原学園か。よし、行くか！」

カキーン

「おう、野球か。青春だねえ。どれどれ？お！マネージャー可愛いじゃん！」

「おう！陸上部発見！よし、勝負だあ！」

「衣笠、どうだ？足の調子は？」

「はい。良好です。これも、理事長をはじめとする先生方のお陰です。！？」

「よし、勝った勝った。おっ！ここが職員室かあ！」

「佐仲くん。すまないが、コーンをどけてもらえないかな。コースの邪魔をしているもので。」

プルプルプル

電話が鳴った。

「もしもし、中原学

「誰なんですか！？あの男は！？」

「はあ？？一体何のことか。」

「あの男ですよ。なんか中原学園の先生方こんにちは、とかってうちと中原学園を間違えている意味不明の男ですよぉ！！」

「えっ??」

「とにかく、この男を持って帰って下さい！」

「わかりました。」

「萩野先生彼方高校へ行つてうちへくるはずだった男を連れて来て下さい。」「だから、この学校は中原高校ではなくて

「だゝからゝ、俺はこの学校に新しく入ってきた春藤はじ…。えっ、ここ中の原高校じゃないの？」

「うちの教師？がすいませんでした。ほらあなたも。」

「すいませゝんでいしたあ。」

「なんで私があるあなたのために。もう。」

「だゝって仕方ないじゃないですか。地図の通りにきたんですよ。ほらここの道をずうっといつて。」

「あなた、東西南北もわからないの？よく教員試験に受かったわね。」

「東西南北くらいわかってるよ。Nがあるほうが西だろ。だから

「こんなとこでばけないください。ほらもう着きますよ。」

「あれがそうです。」

「うおゝ。これが本物の中原高校かゝ。わくわくするなあ。」

「校長。連れてきました。」

「あなたが新しく中の原に来た春藤先生ですね。私はこの校長をやっております、三谷といいます。始めは慣れないこともあるでしょうが、よろしく願いますよ。」

「もちろんです。任せて下さい。」

「早速ですが、自己紹介の方を…」

そうしてこの春藤はじめが先生になることになったのだった。

「取り合えず、春藤先生には3年2組の副担任になってもらいますので、よろしく。」

「副担任？担任は誰なんですか？」

「それが今、…し、失踪しているんですよ。」

「し、失踪？」

「そんなに大きな声を出さないで下さいよ！この学校では皆川先生のことは禁句になってるんですから。」

「す、すいません…。（ふーん。皆川先生っていうのか。）」

というわけで春藤は3年2組を任されることになったのだった。

「はい。みんな席に着いて。今日は新しい先生を紹介します。春藤先生、お願いします。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4795b/>

ど～１！！

2010年10月16日11時02分発行